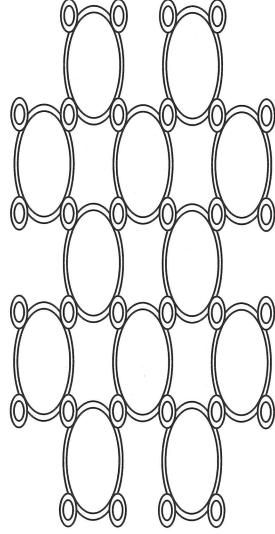


学士会館の錯視

北岡明佳



「学士会館の錯視」

東京大学の皆様にお馴染みのものに、学士会館がある。東京大学出身ではない私にとっては、学士会館は赤門の南の方にあるあの洒落た建物のことであるが、東大の知り合いによるとあれは分館で、本館はもつと南の方にあるという。また、分館は東大の敷地内にあるように見えるが、敷地の外にあるとのことである。外部の者には、実に錯覚的な会館である。

さらに、学士会館は東大のものと思っていたらそうでもないとか、でも利用するのは東大の人ばかりだとか、にもかかわらず東大の人がいつも利用するというわけでもないとか、外部の者にはその禅問答的でミステリアスな香りも楽しい。

その学士会館に新しい錯視を発見したという連絡が、二年前に私のところに来た。発見者は安形康さん（新領域創成科学研究科）で、学士会館の絨毯の模様が発見した。その証拠写真は、彼のブログに掲載されている（http://agatahi.cocolog-nifty.com/diary/2005/10/post_3353.html）。もっとも、本稿の読者の皆様は、実物を見に行つた方が早いかもしれない。

その模様を単純な線画にしたものを、私は「学士会館の錯視」と呼んでいる。大きい横長の楕円を斜めに交互に配置し、その間に小さい横長の楕円を置くと、それらが大きい楕円に引っ張られるかのような方向に傾いて見える錯視である。中心視より周辺視で錯視量が多いようだ。私の知る限りでは、新形の幾何学的錯視（形の錯視）である。

この錯視の連載は今回で終わりであるが、京都在任の私に上京する楽しみが一つ増えた。

（またおか・あきよし 知覚心理学）